



# 実施計画資料

2025年

# アジェンダ

---

1. 本アクションの位置づけ
  2. 計画の導出に資するこれまでの施策や調査の結果
  3. 将来的な目指す姿の達成に向けた進め方
-

# 1.本アクションの位置づけ

# 若者流出が課題である中、スポーツクライミングを一つのコンテンツとしたまちの活性化・若者の誘因を目指し、昨年度に「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定しました

## 本市の目指す姿・課題

### 龍ヶ崎市が目指す姿

- ✓ 2022年12月に、最上位計画「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」を策定し、本市のあるべき姿として「**Creation -ともに創るまち・龍ヶ崎-**」を掲げています
- ✓ その中で、本市が抱える課題への的確な対応や、「住み続けたいまち」の構築に向けて、特に重要な施策を「未来」「魅力」「幸せ」の3つのリーディングプロジェクトとして位置付け、「若者世代の定住促進」や「誰もが楽しめるスポーツ社会の実現」などの施策について、重点的かつ優先的に取組を進めています

### 課題

- ✓ 人口減少、特に若者の流出が顕著な状況となっており、**大学卒業や就職を機に、特に20代の流出が大きく、直近の令和5年度では、年間200人以上の転出超過の状況となっています**
- ✓ 市街地における人口の空洞化や空地・空家の発生といった**「都市のスポンジ化」が懸念されており、人口減少社会に対応した都市構造への転換が求められています**

## 人口減少社会を受けての若者を呼び込む本市の取り組み

### 若者を呼び込む取り組み

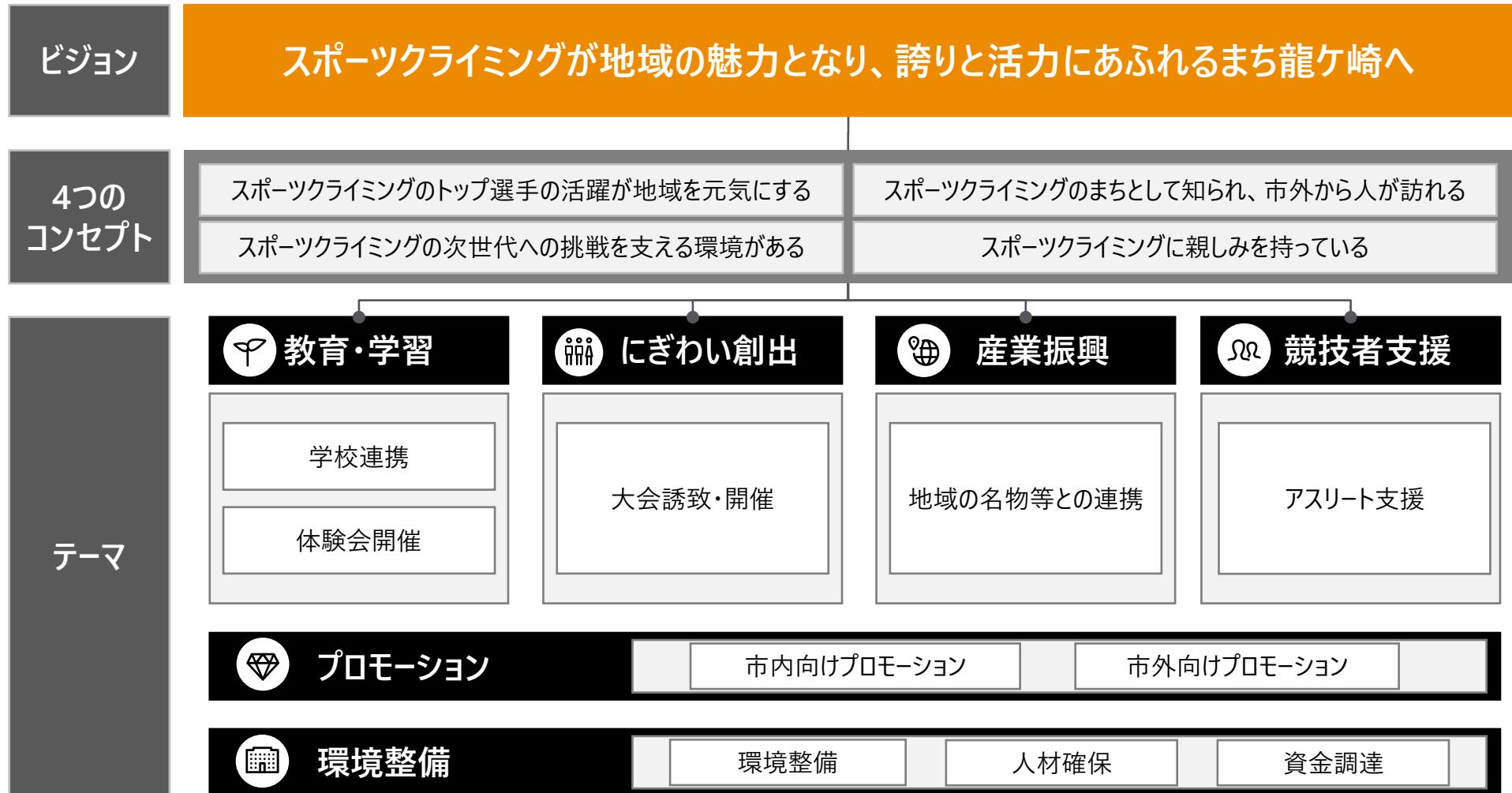
- ✓ 若者や子育て世代を対象とした移住支援金の交付など**経済的な支援**に取り組んでいます
- ✓ 森林公園のリニューアルや保健福祉棟多世代交流センターの整備など**若者に響く魅力アップ**が進んでいます
- ✓ プロスポーツチームや流通経済大学との連携など、トップアスリートを含めた**高いレベルのスポーツに触れる環境**が整っています

オリンピアン、トップクライマーが身边に存在する恵まれた環境  
が本市にはあります。  
そこで、“スポーツクライミング”を一つのコンテンツとしてまちを  
活性化させ、若者を誘引することを目指します

実現に向け、令和6年度に  
「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定

基本構想は、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けたビジョン、コンセプト、テーマに紐づくアクションで構成されています

## 基本構想の全体像



「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の実現は、スポーツクライミングに親しむ環境の整備、選手等を応援する機運の醸成、大会等の開催による交流人口増加の3段階で取り組みます

## 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」実現に向けた今後の展望

認知の範囲

全国

<令和9年度以降～>

Stage3

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」  
運用段階

- ▶ 全国から「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」として認知され、住民がスポーツクライミングに親しみや誇りを持ち、スポーツクライミングを活用した自発的な取組が広がっている。

市外

<令和8年度>

Stage2

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」  
機運上昇段階

- ▶ スポーツクライミングのまちとして、大規模大会が実施されており、多くの関係者がかかる注力イベントとなっている。
- ▶ 市内における認知度は高まっており、応援する機運が生まれている。
- ▶ 市外のプロモーションにもスポーツクライミングが活用されている。
- ▶ スポーツクライミングをきっかけとした移住者が生まれている。

市内

<令和7年度>

Stage1

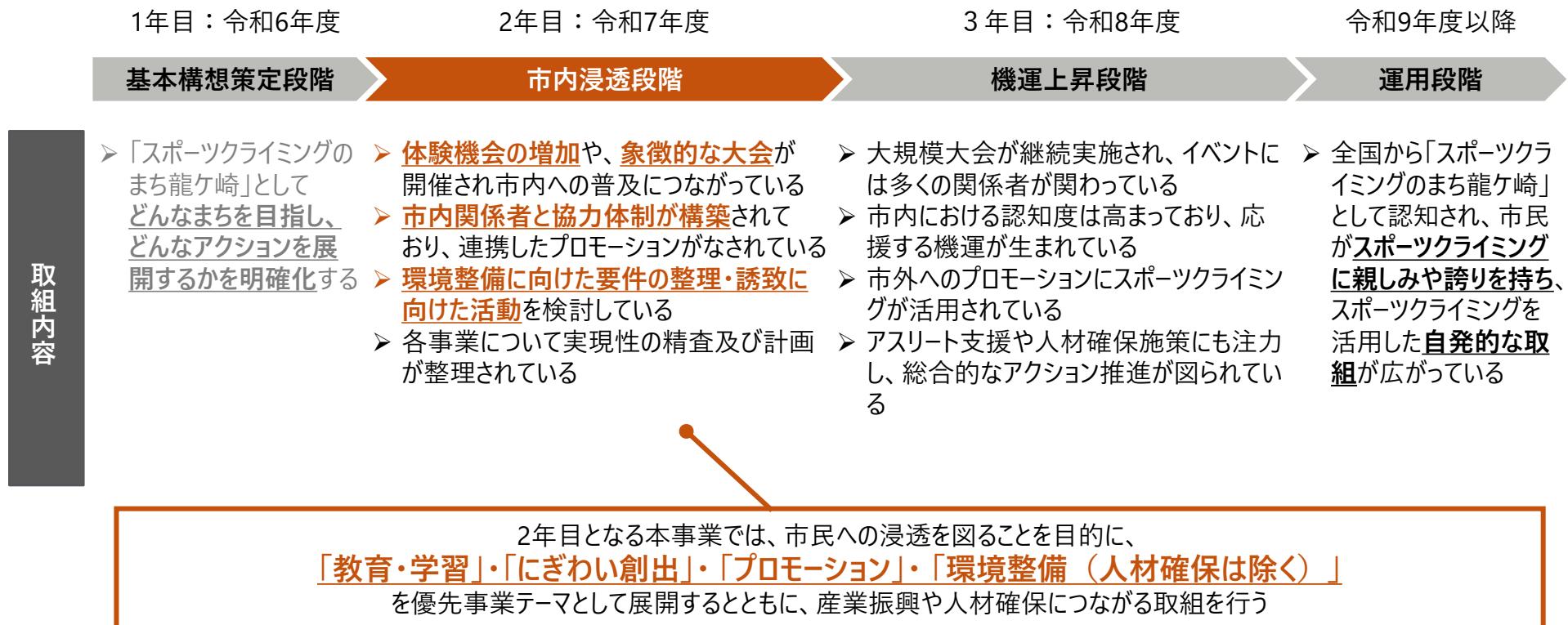
「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」  
市内浸透段階

- ▶ 市内への普及に向けて、体験機会の増加や、象徴的大会が実現されている。
- ▶ 市内の関係者とも協力体制が構築されており、連携したプロモーションがなされている。
- ▶ 各アクションについて実現性が精査され、アクションの実現に向けた計画が整理されている。
- ▶ 環境整備に向けた要件の整理・誘致に向けた活動を検討している。

→ スポーツクライミングをきっかけとした  
取組の広がり

# 市内浸透段階である今年度では、「教育・学習」・「にぎわい創出」・「プロモーション」・ 「環境整備（人材確保は除く）」を優先事業テーマとして展開します

## 今年度事業の位置づけ



# 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けて必要な10のアクションについて、 今年度は「7アスリート支援」以外の9アクションが取組対象です

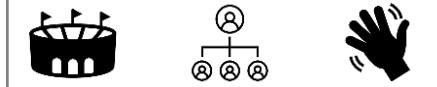
## アクションごとのロードマップ

テーマ	アクション	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
①教育・学習	1 学校連携	連携協議・調整 →実施計画の策定	一部連携	連携拡充
	2 体験会開催	企画・検討 体験会開催	体験会(開催数・年代の拡充)	
②にぎわい創出	3 大会の誘致・開催	誘致 企画・開催	誘致 企画・開催	企画・開催
③産業振興	4 地域の名物等と連携	大会との連携 制度・連携検討	大会との連携 制度・連携検討	大会との連携 連携・制度運用
④プロモーション	5 市内向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
	6 市外向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
⑤競技者支援	7 アスリート支援		方針検討	制度運用
⑥環境整備	8 スポーツクライミング環境整備	施設・拠点方針検討	検討結果に応じて実施	
	9 人材確保	人材要件の検討・募集		採用
	10 資金調達	制度検討	制度運用 企業版ふるさと納税確保	

凡例： 検討・企画 実施

# 教育機関等と連携してスポーツクライミングの体験・学びの機会を創出するとともに、意欲の高いこどもが練習できる環境づくりに取り組みます

## アクション【1】学校連携

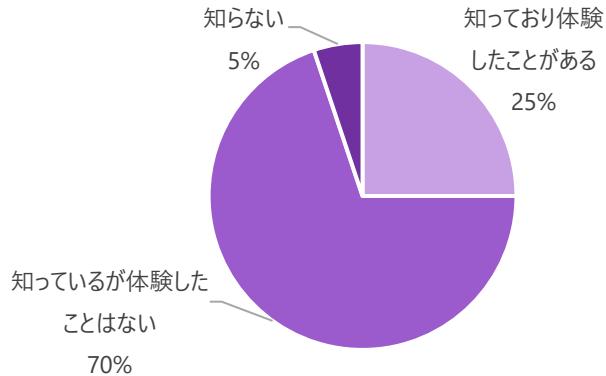
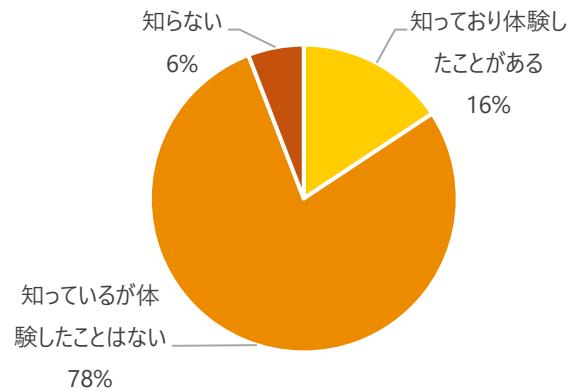
施策概要	教育機関等におけるスポーツクライミングの体験・学習の機会を創出します。(授業導入・キャリア教育・ウォール設置・定期的な練習会等)	施策イメージ
目的	スポーツクライミングの普及促進を図るとともに、多様なスポーツ体験の機会を提供します。また、意欲の高いこどもの活動機会の確保に取り組みます。	<p>■ 教育機関や就学前教育・保育施設等と連携し、こどもたちがスポーツクライミングに触れることができる機会の創出を図ります。</p> <p>■ 意欲の高いこどもが定期的に練習できる環境を整備します。</p> <p>&lt;実施内容案&gt;</p> <p>教育機関等と①②の実現の可能性について検討し、目的の達成及びこどもの体力向上や健全な成長につながる仕組みや環境を設計します。</p> <p>① 授業・放課後等でのスポーツクライミングの体験・学習機会の創出</p> <p>② 定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立</p>
関係者と役割	<ul style="list-style-type: none"><li>龍ヶ崎市 教育機関等との連携施策検討・調整</li><li>教育委員会・小中学校 年間を通じた体験・学習機会の設計及び体験場所の検討</li><li>スポーツクライミング関係団体等 学校での体験会・練習会の実施、キャリア教育等の講師</li><li>指定管理者 たつのこアリーナでの体験会受入</li></ul>	<p>①スポーツクライミング体験・学習が可能な機会・場所の創出</p>  <p>体育の授業 校内での キャリア教育 での体験 ウォール設置 の授業</p> <p>②定期的に練習可能な機会の創出</p>  <p>場所の確保 実行体制スキームの検討 指導人員の確保</p>
令和7年度以降取り組む内容	<ul style="list-style-type: none"><li>教育機関におけるスポーツクライミング体験やキャリア教育の授業等への機会創出</li><li>スポーツクライミング体験場所の確保に向けた検討(ハード設置/アリーナ訪問)</li><li>体験指導人材・キャリア教育人材の確保</li><li>定期的に練習が可能となる場所の検討</li><li>施設保有自治体や民間ジムとの連携検討</li></ul>	<p>収益・コスト</p> <p>・コスト：体験会開催費、指導者・キャリア教育講師等費</p>

## 2. 計画の導出に資する これまでの施策や調査の結果

昨年度に行った市民アンケートでは、スポーツクライミングの未経験者割合は7割以上となつており、定期的な体験者もまだまだ少ない状況でした

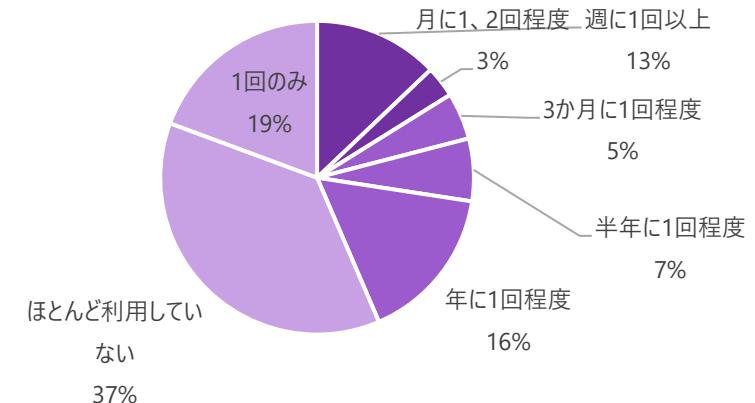
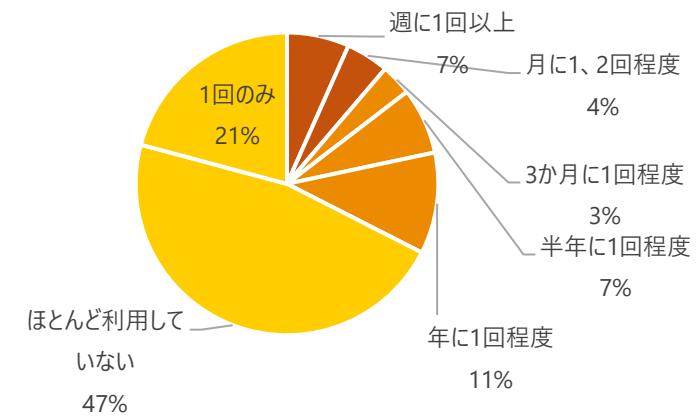
### スポーツクライミングを知っていますか？体験は？ (n=1105)

スポーツクライミングを「体験したことがない」を回答した人が7割以上だが、30代以下では体験したことがある割合が増加



### 体験の頻度はどのくらいですか？ (n=240)

全体的に月に1回以上体験している人は11%と低いが、30代以下になると体験頻度は上がり、年に1回以上体験をしている人が半数に迫る



そこで、今年度は11/8にて、野口啓代氏を始めトップクライマー3名による親子向け体験会を開催。保護者25名、児童28名の計25組53名にご参加いただきました

## 11/8実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

### 開催概要

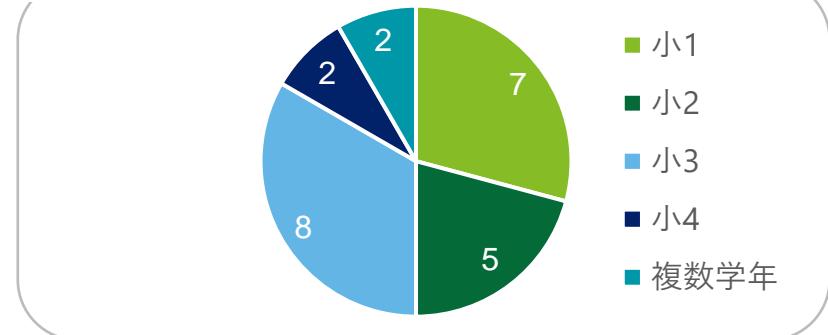
- 野口啓代氏を始め、トップクライマー3名による2部構成の体験会と、アーナウォールの無料開放を実施
- 大人の体験機会創出も兼ね、体験会の対象は親子30組とした



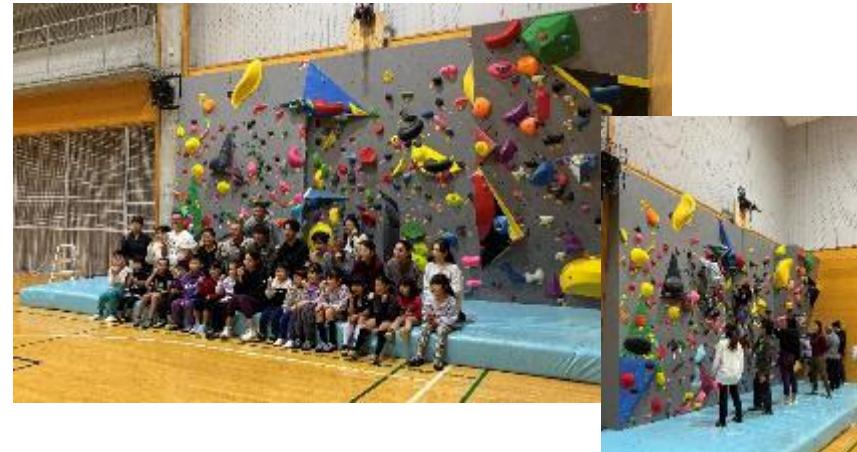
### 実施報告

#### ■ 参加者

保護者： 25名  
児童： 28名



#### ■ 当日の様子



# 保護者への事後アンケートにて、参加者の8割以上がボルダリングを続けたいという回答がありました

11/8実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

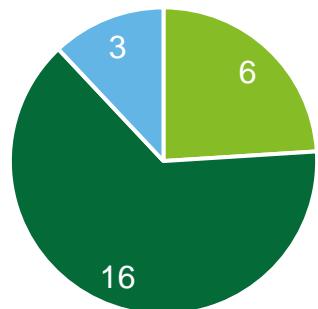
9.人材確保

10.資金調達

## アンケート結果（参加保護者25名が回答）

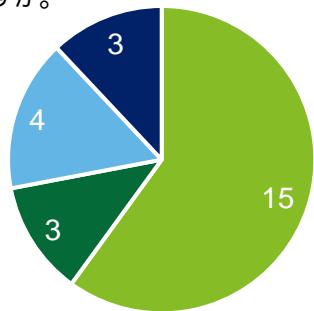
- これからボルダリング(スポーツクライミング)を続けたいですか。

- 必ず続ける
- 機会があれば続ける
- 分からない



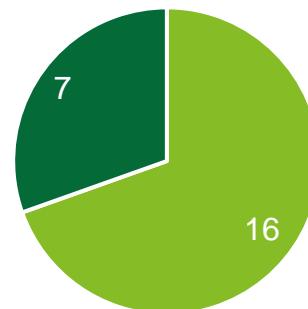
- 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を知っていますか。また、関わりたいと思いますか。

- 認知○、関与意欲○
- 認知○、関与意欲×
- 認知×、関与意欲○
- 分からない



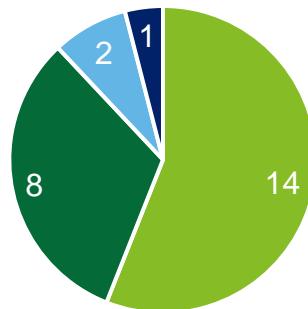
- ニューライフアリーナ龍ヶ崎でボルダリング教室を行っていることを知っていますか。

- 知っている
- 知らない



- ニューライフアリーナ龍ヶ崎のボルダリング教室に参加してみたいと思いますか。

- 思う
- 少し思う
- あまり思わない



# さらに、鉾田市「とくしゅくの杜」のクライミング施設を見学し、学校教育との連携や施設運営に関するヒアリングを実施しました

## 鉾田市「とくしゅくの杜」視察まとめ

施設規模：

小  
(競技に親しむ場所)

中  
(競技者の練習場所)

大  
(大規模大会の開催場所)

### 視察概要

**日時** 令和7年8月7日 14:00~

**場所** 茨城県鉾田市「とくしゅくの杜 スポーツクライミングセンター」

**内容**

- ・スポーツクライミングの学校教育との連携
- ・スポーツクライミングの民間組織の立ち上げ・連携
- ・とくしゅくの杜 施設運営



### 視察結果まとめ

#### 学校連携

- 教育現場との関わり
  - ・生涯学習課が担当課となっており、教育委員会教育部局であることから学校との調整、連携は比較的円滑である
  - ・第74回国体の開催にあたって鉾田市が山岳競技の開催場所となり、市・教育委員会が一丸となって普及・啓発活動に取り組んだことからスポーツクライミングの取組が開始。岳連からの全面的な協力もあり、安全面において学校側の理解を得られた
- 市内小学校におけるウォールの設置・活用状況
  - ・市内全小学校にウォールを設置済み。コロナ禍以前は休み時間・体育の授業にてサーキットトレーニングとして活用されたが、現在は市内1校でのクラブ活動(※)のみ  
※鉾田南小学校にて健康づくり財団の指導の下2か月に1回の頻度で実施。校長と健康づくり財団職員との繋がりから自発的に活動が開始し、現在は4～6年生20人程度が在籍
- 学校授業への活用
  - ・山岳連盟・各小学校での日程調整の上、年1回・市内全小学校6年生を対象に本施設にて「小学生クライミング教室」を実施。スポーツクライミングが学習指導要領にないため、各校にて体育授業や学校行事に割り当てている
  - ・クラス単位で公用バスで移動し、2時間授業の中でボルダー・リード競技を体験。スタッフは山岳連盟（3～4名）・健康づくり財団（1名）・市職員（4名）

#### 民間組織の立上・運営

- 立上げについて、競技の普及促進を目的に、鉾田市生涯学習館（ハード施設）の開館に併せて「鉾田市スポーツクライミングクラブ」を発足。学連メンバーが指導し、会員は60名（うち、こども20名）、部費は2000円程度/月
- 市との連携について、練習日の施設優先予約、施設利用料の減免がある

#### 施設運営

- 施設の運営経費について、歳出の7割以上を占める委託費は、主にシルバー人材への夜間の施設管理の委託（一般的な事務作業のみ）
- セットの入れ替えについて、大会やイベントを頻度高く開催することで、委託業務においてセットを変えられるように工夫（年4回程度）。ホールドの取り外し・洗浄は直営であり、市職員の業務作業量として占める割合は大きい

# また、港区立小中学校のクライミングウォールを見学し、導入経緯や活用状況に関するヒアリングを実施しました

## 港区立小中学校視察まとめ

### 視察概要

日時 令和7年10月24日 15:00~

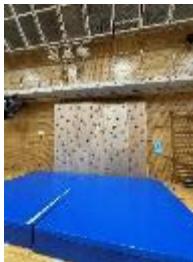
場所 東京都港区立高松中学校・高輪台小学校

- 内容
- ・導入経緯
  - ・活用状況（学校内外）
  - ・導入後の効果・所感

### 高松中学校



### 高輪台小学校



### 示唆

- ・授業外での利用に関するルール／児童生徒がチャレンジしたくなる工夫がないと、単発の体験に終わってしまう
- ・学校側での安全管理として教員に対する指導者講習の受講が必要となるが、教員の異動リスクも鑑み、受講方法等をマニュアルとしてコンテンツ化するとよい

施設規模：

小  
(競技に親しむ場所)

中  
(競技者の練習場所)

大  
(大規模大会の開催場所)

### 視察サマリ

#### 導入経緯

- ・教育委員会として生徒の体力・運動能力向上を目指す中、特に握力の数値が全国平均を下回ってる課題の対応策として、区内全小学校にボルダリングウォールを設置  
→他中学校に先行して、左記中学校にも導入

#### 活用状況

##### ■学校での活用

###### 【ソフト面】

- ・活用場面は体育授業のみ
- ・実施頻度はクラスごとに2回程度／年
- ・実施内容は教員が生徒にルールや登り方を指導。ウォール各面の安全管理のため、指導員含め2名必要
- ・教員はルールや登り方の指導の他、ハーネスの付け方を学ぶ

###### 【ハード面】

- ・設置後からルートは変更なし
- ・維持管理等のチェックは教育委員会にて実施

##### ■地域・課外での活用

- ・地域団体、区NPO法人にて不定期にボルダリング教室が開催されており、都度場所を貸している

#### 導入後の効果・所感

- ・男女問わず積極的に上る子が多かった
- ・小学校への導入後だが、教室に握力計を設置しており、計測値が上がったデータあり

# 肋木クライミングウォールを市内3校に設置しており、児童たちは興味を持って利用しておりますが、継続的に利用するための仕掛けが求められています

## 肋木ウォール導入校における児童の反応

### 背景

9月に、市内3小学校（八原小、馴馬台小、川原代小）へ肋木クライミングウォールを設置。各校が授業などで体験を促進  
→今後の学校連携施策を考える上でも、3校での児童の反応などを把握する必要があり、3校の教員に向けて、ヒアリングを実施



### ヒアリング結果

#### 現在の活用状況に関して

##### 【目的】

- ・実際に体験した児童の反応・興味度合を把握する
- ・実際に利用する中での現場課題を把握する

##### ✓ 2校にて、体育の授業での体験

- 前のめりに体験する児童も多数いた一方で、1名ずつしか登れないため、授業というより体験の位置づけ
- 色縛りを設けたり、待っている児童が次に掴むホールドを指定する形式を採ったり、先生側で登り方を工夫

##### ✓ 2校にて、休み時間に開放して利用（先生1名が見張り）

- 設置当初から興味を持つ児童が多く、1日最低5名程度は体験。中でも、中学年世代に最も人気

#### 今後の活用に関して

##### 【目的】

- ・今後、市内の全こどもが体験する状態を作るためには、**どのような工夫をして事業を進めていくと良いか**の考えに至る現場の声を把握する

##### ✓ 体育の授業においては、サーキットトレーニングへの導入などを想定。

単独での体験授業は数回程度になる想定

- 休み時間に自主的に児童が体験してくれるために、参考課題があると良い

##### ✓ 先生側としても、より楽しく・安全に登れる方法を知らない点があるため、**先生向けの指導や先生同士のノウハウ交換は必要**

- ✓ クラブ活動等での利用も考えられるが、普及させるためには外部の指導者による指導の機会が効果的

今後の更なる利用促進に向けて  
先生・児童それぞれに対する登り方マニュアルの共有が求められる

# 11/23産業祭にて特設ウォールを設置し、体験会を開催しました。約300名が体験し、小学生の他、未就学児や高校生、保護者など幅広い層が利用しました

## 11/23実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

### 開催概要

- 産業祭の1区画に特設ウォールを設置し、体験会を実施。  
現役流経大生のスポーツクライミング経験者2名をはじめ、市職員ら  
にて運営し、約300名が体験

<開催日時>

✓ 11/23 10-15時

<開催場所>

✓ 龍ヶ崎市役所南駐車場

<運営人数>

✓ 9名

✓ 龍ヶ崎市	6名
✓ 流経大	2名
✓ DTC	1名

### 実施報告

#### ■ 参加者

約300名

※集計方法

- 10~14時にて目視で集計（234名）
- 1時間当たりの参加者を計算し10~15時での参加人数を算出

#### ■ 当日の様子

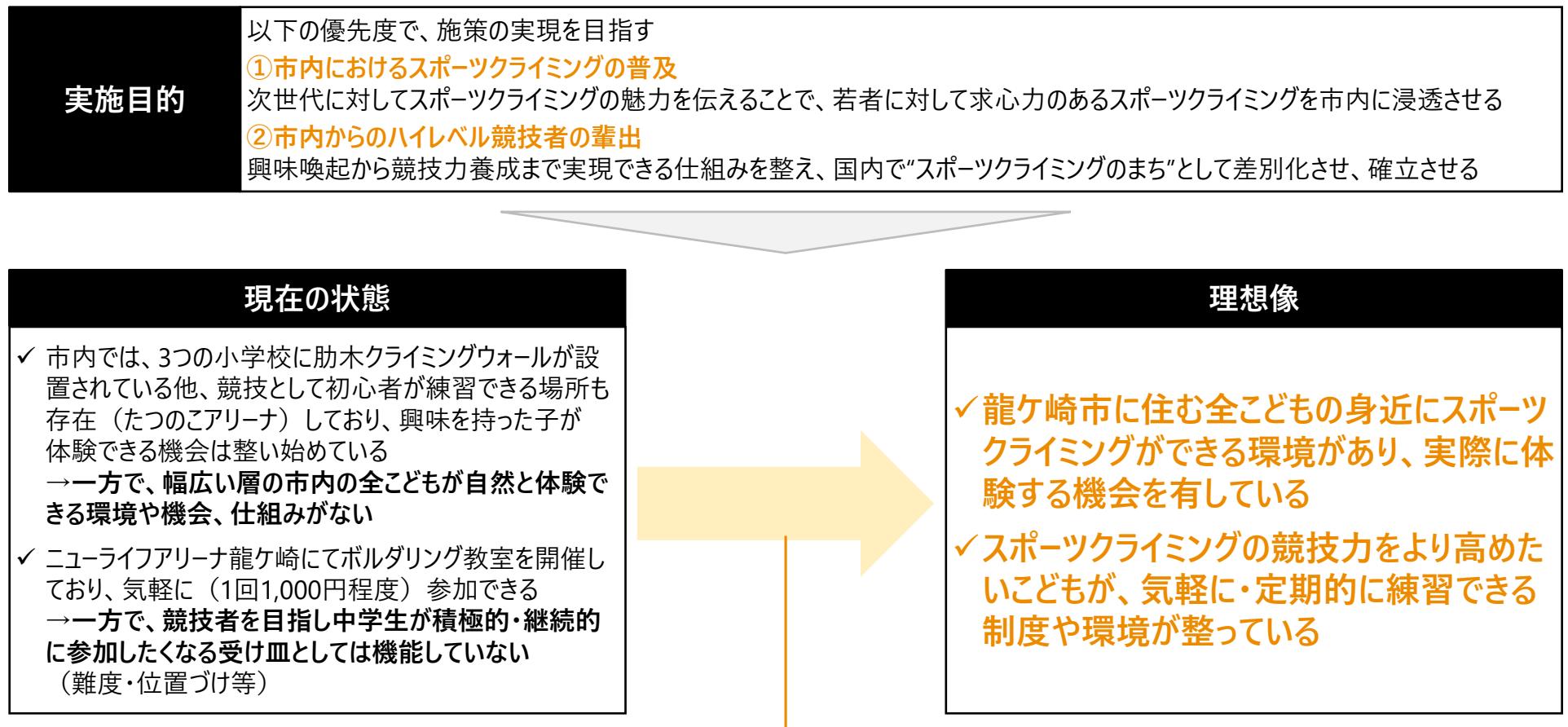


3歳頃から大人までが楽しめる、幅広く難度が設計された計8課題があり、主に子どもを中心に好感触だった一方で  
設営・撤去については一定のスキルや人数・作業時間が必要となるため、高頻度の巡回は難しい

### 3. 将来的な目指す姿の達成に向けた 進め方

# 龍ヶ崎市では、若年層に対してスポーツクライミングを普及させることを最優先に据えつつ、興味喚起から育成まで可能な状態を目指していきます

## 実施目的と理想像



施策方向性①  
体験・学習機会の創出

施策方向性②  
定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

# **施策方向性①**

## **体験・学習機会の創出**

# 体験・学習機会を創出するためには、ハードの調整を伴った体育の授業への導入を主としつつ、関心度合に合わせたソフト事業の展開も求められます

## 体験・学習機会の創出

理想像

龍ヶ崎市に住む全こどもの身近にスポーツクライミングができる環境があり、実際に体験する機会を有している

### 理想像実現に向けたハード・ソフトの関係図

#### 【ソフト】

“する”ことに関心を持った子が、継続的にスポーツクライミングに触れたくなる／触れられる仕組み  
= 授業外での利用に関するマニュアルの展開・指導体制の充実化

#### 【ソフト】

“する”ことに関心がない子でも  
スポーツクライミングに愛着が湧く機会  
= 道徳教材や美術ワークショップの企画／提供



#### 【ソフト】

全こどもがスポーツクライミングに触れることができる機会  
= 市内全校における体育の授業での導入

#### 【ハード】

全こどもたちの身近にスポーツクライミングができる環境

難度低

一部学校への  
小規模ウォール  
(肋木ウォール) 設置

市内全校への  
移動式ウォールの  
巡回

市内全校への  
小規模ウォール設置  
※港区イメージ

市内学校への  
大規模ウォール設置  
※多久高校イメージ

難度高

# 理想像実現のためには、ソフト事業によってスポーツクライミングを継続して取り組むこどもを増やした後に、ハード整備に本格着手するか検討する流れが望ましいと考えています

## 実現に向けた今後のステップ

### 鉢田市ヒアリング結果

- ✓ 施設として充実した地域のクライミングウォールにて、専門家が指導する体育の特別授業では満足度が高い
- ✓ 一方で、児童生徒の身近な環境では体験できないため、1回の体験で興味を持った子の興味を伸長できない

### 港区ヒアリング結果

- ✓ 学校に競技環境が整っているため、年数回ではあるものの、毎年体育の授業で体験ができる
- ✓ 一方で、授業外での利用に関するルールがないと、継続的な体験につながらず、定着し切らない

### 市内3校へのヒアリング結果

- ✓ 肋木ウォール設置当初や授業等での初回の体験機会では、児童たちが興味深く取り組んでいる
- ✓ 難度が高くないため、児童がチャレンジしたくなる工夫（課題・指導者）がないと、利用者が減っていく恐れがある

#### 1st ステップ

##### ソフト

- ・ 体育授業枠を活用して、市内のこどもたちが最低1回は体験できる機会を整える

##### ハード

- ・ 移動式ウォールが巡回する／ニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用が全小中学校で採られている

#### 2nd ステップ

##### ソフト

- ・ 体育授業に導入し、市内のこどもたちが定期的に体験できる機会を整える

##### ハード

- ・ 授業外での児童生徒の利用促進に向けた、先生・児童生徒に対する登り方マニュアルを展開する
- ・ 移動式ウォールが巡回する／ニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用を、市内全小中学校が持続している

#### 3rd ステップ

##### ソフト

- ・ 興味を持った子が、施設に訪れますとも定期的に専門家から指導を受けることができる

##### ハード

- ・ 体験に興味がない子でも、道徳や図工／美術の時間を通してスポーツクライミングに触れられる
- ・ スポーツクライミングが身近な環境で通年で体験できる環境を作る（＝市内各校へのウォール常設）  
※施設規模は体験目的の小規模が基本となり、部活等による競技力向上目的が生じれば大規模施設も検討

✓在学中に1回  
体験

✓年1回は体験

✓最低年1回は  
体験  
✓興味を持った  
子は通年で体  
験

現在市内に存在するリソースの他に、より簡単に移動しやすいウォールを導入することで、市内小中学校が体験機会を確保しやすくなると考えております

### ハード施策) 市内に存在している／求められる設備

← 現在市内に存在するリソース →

ニューライフアリーナ龍ヶ崎



肋木ウォール



移動式ウォール（大）



移動式ウォール（小）

現在、市に  
存在せず

- 小学校中学年程度までの初級者が、自身の競技力を向上させるために利用
- 施設に常設されており、9:00～22:00で利用可能
- 同時に3人体験可能

希望する小学校の出張体験先  
及び小学生初級者の練習場所



流入促進

スペースが限られる  
小学校を巡回

(主に小学生) 流入促進

- 小学校中学年程度までの全子どもが、授業や学校の休み時間で楽しみながら体験する用
- 市内3小学校に設置済ではあるものの、取り外して肋木のある学校に設置することも可能
- 同時に1名体験可能

- 大人を含む運動が好きな未経験者が、イベント会場等にて遊びで楽しむために利用
- 5m×6m程度のスペースがあれば特設可能だが、特設には人員数・スキル・時間が必要
- 同時に3名体験可能だが、各壁に1名の監督者が必要

スペースがある中学校に設置し  
一般開放や簡易教室も開催

- 市内の小中学生が、体育や休み時間に体験できる用
- 専門知識やスキルがなくても、短時間・少人数で設置が可能（地域コミュニティに貸出できるとなお良い）
- 1壁に、同時に2名程度が体験可能な仕様が望ましい

中学校やスペースのある  
小学校を巡回

各設備を体育の授業に活用することを想定し、「1壁へ同時に登れる人数」、「1回登る所要時間」、「可能体験時間」から、各設備での1授業あたりの延べ体験人数を試算しています

### 各設備での延べ体験人数シミュレーション

ニューライフアリーナ龍ヶ崎	肋木ウォール	移動式ウォール（大）	移動式ウォール（小）
同時に3人体験可能	同時に1名体験可能	同時に3名体験可能 ※各壁に1名監督者が必要	同時に2名程度が体験可能
1回体験あたり1分	1回体験あたり45秒	1回体験あたり1分	1回体験あたり1分
1訪問あたり→1時間程度 ※各校の移動時間や確保する授業コマ数等で変動あり	1授業あたり→小学校：35分 ※準備運動、注意点の共有などで別途10分	1授業あたり→小学校：35分、中学校40分 ※準備運動、注意点の共有などで別途10分	
1授業（1訪問）あたり 延べ180名程度が体験可能	1授業あたり 延べ約45名が体験可能	1授業あたり 延べ約105～120名が体験可能	1授業あたり 延べ約70～80名が体験可能

# 市内小学校の児童数、クラス数、1クラスあたりの児童数は以下の通りです

## 市内小学校の児童生徒数

※2025年9月時点

学校名	学年別児童生徒数（上欄特別支援学級児童数 ・下欄普通学級児童数及び学級数）						1クラスあたりの生徒数		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	低学年	中学年	高学年
	2 ( 2 )	7 ( 2 )	4 ( 2 )	9 ( 2 )	3 ( 2 )	12 ( 2 )	30-34名	22-28名	26-28名
龍ヶ崎小	68 ( 3 )	59 ( 4 )	55 ( 3 )	45 ( 4 )	55 ( 3 )	52 ( 4 )	27-28名	30-32名	27-31名
	6 ( 3 )	3 ( 4 )	7 ( 3 )	11 ( 4 )	12 ( 3 )	6 ( 4 )	27-33名	24-25名	26-34名
八原小	82 ( 1 )	111 ( 1 )	96 ( 1 )	121 ( 1 )	93 ( 1 )	109 ( 1 )	9-19名	12-15名	10-11名
	3 ( 1 )	5 ( 1 )	4 ( 1 )	7 ( 1 )	7 ( 1 )	8 ( 1 )	22-26名	18-30名	19-29名
馴柴小	66 ( 1 )	83 ( 1 )	75 ( 1 )	72 ( 1 )	67 ( 1 )	78 ( 1 )	23-24名	9-22名	20-22名
	0 ( 1 )	1 ( 1 )	0 ( 1 )	2 ( 1 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	28-34名	28-30名	20-21名
川原代小	9 ( 1 )	19 ( 1 )	12 ( 1 )	15 ( 1 )	10 ( 1 )	11 ( 1 )	22-32名	18-20名	20-35名
	1 ( 1 )	2 ( 1 )	1 ( 1 )	2 ( 2 )	7 ( 1 )	1 ( 2 )	21-32名	18-22名	22-26名
龍ヶ崎西小	22 ( 1 )	26 ( 1 )	30 ( 1 )	37 ( 2 )	29 ( 1 )	39 ( 2 )	30-33名	24-30名	24-35名
	0 ( 1 )	0 ( 1 )	0 ( 1 )	2 ( 1 )	5 ( 1 )	3 ( 1 )			
松葉小	23 ( 1 )	24 ( 1 )	22 ( 1 )	9 ( 1 )	22 ( 1 )	20 ( 1 )			
	2 ( 1 )	2 ( 1 )	7 ( 1 )	6 ( 1 )	11 ( 2 )	4 ( 2 )			
長山小	28 ( 1 )	34 ( 1 )	28 ( 1 )	30 ( 1 )	41 ( 2 )	41 ( 2 )			
	2 ( 1 )	2 ( 1 )	2 ( 2 )	4 ( 2 )	4 ( 1 )	1 ( 2 )			
馴馬台小	22 ( 1 )	32 ( 1 )	37 ( 2 )	39 ( 2 )	35 ( 1 )	41 ( 2 )			
	2 ( 1 )	2 ( 2 )	5 ( 2 )	4 ( 2 )	9 ( 2 )	4 ( 2 )			
久保台小	32 ( 1 )	43 ( 2 )	43 ( 2 )	37 ( 2 )	51 ( 2 )	45 ( 2 )			
	2 ( 1 )	2 ( 2 )	5 ( 2 )	4 ( 2 )	9 ( 2 )	4 ( 2 )			
城ノ内小	3 ( 2 )	5 ( 2 )	1 ( 2 )	6 ( 3 )	3 ( 3 )	4 ( 2 )			
	65 ( 2 )	60 ( 2 )	60 ( 2 )	70 ( 3 )	72 ( 3 )	69 ( 2 )			

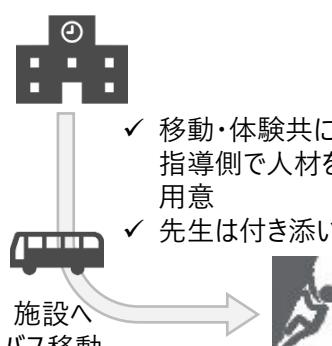
各設備での1授業あたりの延べ体験人数と各校の児童数・クラス数から、各校で体育の授業へ導入する場合に、最適な設備を評価いたしました

各設備×各校の適正度合（体育の授業1回）

	ニューライフアリーナ龍ヶ崎	肋木ウォール	移動式ウォール（大）	移動式ウォール（小）
	1訪問（2~3コマ）あたり 延べ180名程度が体験可能	1授業あたり 延べ約45名が体験可能	1授業あたり延べ約105~120名 が体験可能 ※3名の監督者要	1授業あたり 延べ約70~80名が体験可能
龍ヶ崎小	(○) バス移動に適した 学年児童数	(×) 1クラスあたりの児童数が 多く、体験回数少	(△) 2クラス合同での開催が 見込まれ、体験回数少	(○) 1クラスによる授業で 1学生あたり複数回体験可能
八原小				
馴柴小				
川原代小				
龍ヶ崎西小				
松葉小			今後、各校における評価を実施 (中学校も同様)	
長山小				
馴馬台小				
久保台小				
城ノ内小				

# シミュレーションも基にしつつ、まずは2026年度、開催を希望する対象校に対して体験会を開催いたします

## ソフト施策）2026年度に開催する学校体験会の概要

	体験会開催概要	実施手法
希望する学校の授業約2コマ分を借り、初心者向けの体験会を開催	希望する学校の授業約2コマ分を借り、初心者向けの体験会を開催	学校側の意見も伺い、以下パターンのうち実現できる手法で準備・開催
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 市内の子どもにスポーツクライミングの魅力を認識してもらい、体験／応援意欲を促進する</li><li>✓ 実用性の伴った目指す姿を実現するために、子どもたちのニーズを把握する</li></ul>	<b>実現パターン①：たつのこアリーナに移動して、体験会開催</b>  <p>施設へバス移動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 移動・体験共に指導側で人材を用意</li><li>✓ 先生は付き添い</li></ul>
参加者	<p>&lt;対象者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 対象校における1学年～全学年</li></ul> <p>&lt;指導者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ たつのこアリーナ職員 or 外部クライマー</li></ul>	<b>メリット／デメリット</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(+) 同時に登れる人数がより多い</li><li>(+) 1～2回体験したことがある児童生徒でも十分に楽しむことができる</li><li>(-) 児童生徒誘導にあたる人的コストと、バス移動による金銭的コストが発生する。当該コストが対象クラス分発生する</li><li>(-) 移動時間込みとなるため、2～3コマ分の授業時間を確保する必要がある</li></ul>
実施時期	各校と調整	<b>実現パターン②：学校へウォールを持ち込み、体験会開催</b>  <p>置き場所へ移動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 指導員が学校訪問</li><li>✓ 対象クラスが体験する間はウォール据え置き</li></ul>
対象校	2026年度時点で開催を希望する小中学校	<b>メリット／デメリット</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(+) 目指す姿に近い環境で体験会を開催でき、今後発生しうる課題を把握しやすい</li><li>(+) 児童生徒移動に係る人的・金銭的コストがない／先生の負担も少ない</li><li>(-) 特設ウォールを一定期間据え置きできるスペースが必要になる</li><li>(-) 体験会以外の時間での利用ルールを定める必要がある</li><li>(-) ウォール設置の人員・期間が要る</li></ul>

# 継続的な体験を促進するため、より積極的に児童生徒が利用するためのマニュアルや安全管理の質を向上・均質化するための指導マニュアル作成も求められます

## ソフト施策) 児童生徒用・先生用マニュアルの概要

学生用マニュアル		先生用マニュアル	
作成目的	✓ 授業での体験を通してスポーツクライミングに興味を持った子が、休み時間などの継続的なウォールを利用することを促す	作成目的	✓ 担当教員のスポーツクライミング経験の有無に問わず、授業内外の指導において、より安全に・より児童生徒が前向きに取り組める状態を作れるようにする
内容	✓ 肋木ウォールや移動式ウォールにおいて、複数の課題（ルート）とその課題の登り方が難易度別に記載 ※なわとび検定表をイメージ	内容	✓ 児童生徒が安全に登るために必要な以下のような情報を掲載 <ul style="list-style-type: none"><li>事前準備における注意点（マットの置き方等）</li><li>安全な登り方／降り方に関する指導方法</li><li>授業時の安全な運用方法・オペレーション</li><li>使用前後の安全性に関するチェックポイント 等</li></ul> ✓ 児童生徒が前向きに楽しく登るために必要な以下のような情報を掲載 <ul style="list-style-type: none"><li>児童生徒が楽しめるためのノウハウ／プログラム案</li><li>上手に登るためのコツ・体の使い方</li><li>適切なトレーニング方法 等</li></ul>

港区立高松中学校でも、色で難易度を分けており、生徒は自分のレベルに合わせて登っている



## **施策方向性②**

**定期的に練習が可能な機会や制度等の確立**

市としては、市内学校の体育授業にスポーツクライミング体験がある状態と  
地域クラブが持続的に存在する状態を理想と捉え、実現手法を模索したいと考えています

定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

理想像

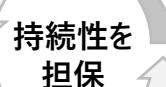
スポーツクライミングの競技力をより高めたいこどもが、気軽に・定期的に練習できる制度や環境が整っている

特に不足している競技環境の整備は前提となりつつ  
制度設計やヒト・カネの設計が必要

理想像実現を支える状態像

【ヒト：指導体制】

- ✓ 安全管理に関する知見を有しながら  
AKIYO's DREAM with RYUGASAKIに出場する  
ような選手を指導・育成できる人材が継続的に  
存在している



【カネ：活動財源】

- ✓ 市内のこどもたちからは、継続的に参加が  
可能な費用を徴収するのみで  
活動を継続することができる

【情報：制度（情報共有）】

- ✓ 市内のこどもたちが、身近にスポーツクライミングを練習できる環境（施設・団体）があることが知れ、参加できる

【モノ：競技施設】

- ✓ 中学生の体格であっても、満足に練習ができ、自らの競技力を伸ばせる
- ✓ 市内のこどもたちが放課後や土日に、定期的に通うことができる

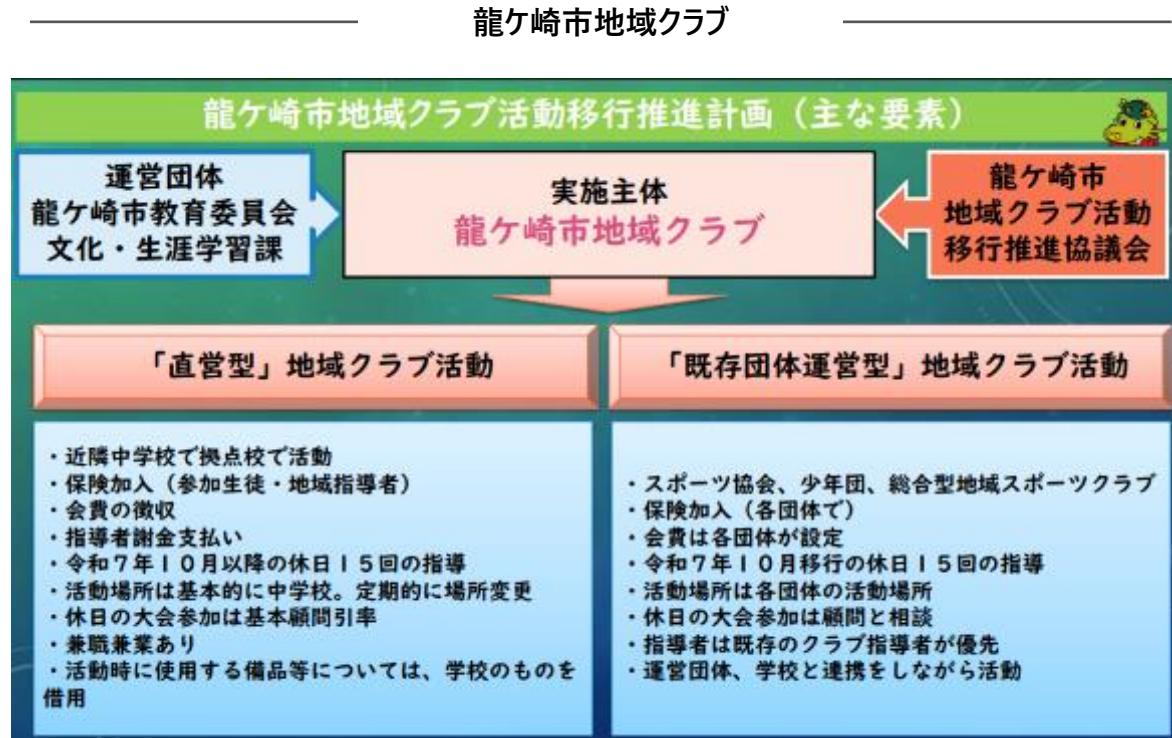
↑  
継続要件

↓  
開始要件

↑  
開始要件  
↓

龍ヶ崎市内でスポーツクライミングの活動団体を組成する場合、活動の自由度等を鑑みて地域の民間団体による活動として認定する方向性が望ましいです

## 定期的な練習機会の在り方



- ✓ 教育委員会で定める部活動の運営方針に準拠した活動内容を設計する必要あり（活動時間、体制、禁止事項等）
- ✓ 加盟している地域クラブは、中体連の登録を想定 **※スポーツクライミングは中体連無し**
- ✓ 地域クラブの1つとして、新入生を始め児童生徒に対する活動紹介はあり

活動の自由度を鑑みて  
目指すべき位置づけ

地域で活動している少年団や  
民間スクール事業

龍ヶ崎水泳

龍ヶ崎柔道

龍ヶ崎剣道・城南支部

龍ヶ崎空手

龍ヶ崎合気道

等

※参考：龍ヶ崎市スポーツ少年団新入団員募集！

- ✓ 民間団体が定めた活動内容を了承した人が練習や大会に参加
- ✓ 地域に存在する学外活動の受け皿として、新入生に対する活動紹介あり

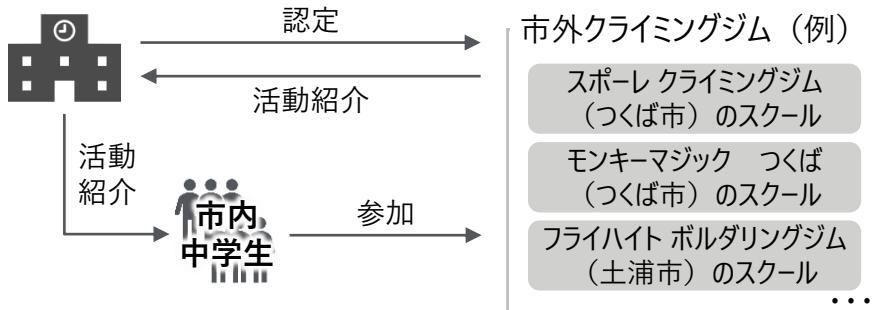
# 中学生が満足に練習できる施設がない市の現状を踏まえると、市外ジムとの連携か、新施設を整備した上での競技団体設立によって活動母体を用意する必要があります

## 地域の民間団体による活動として認定されるための手法

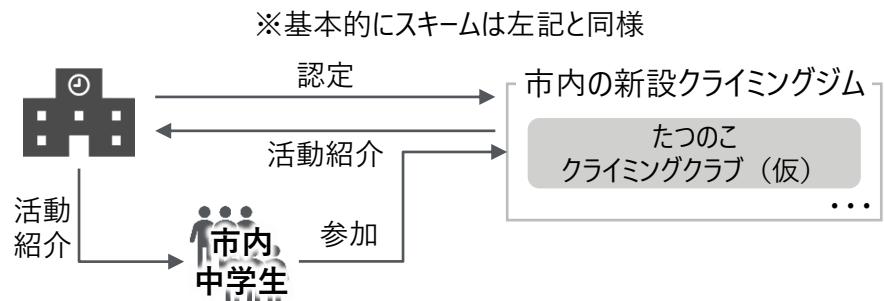
### 市内の現状

- ✓ ニューライフアリーナ龍ヶ崎でボルダリング教室を開催しているものの、壁の難易度が高くないため、小学生が大半を占めている
- ✓ 上記の教室を通して上手くなった小中学生たちは、市外のスポーツクライミングジムを個人的に利用している
- ✓ AKIYO's DREAM with RYUGASAKIには、市民 9 名が参加した

### ①市外のクライミングジムのスクールを認定



### ②市内で、今後新たに組成された地域活動を認定



### 課題

- ✓ 練習環境が周辺にあることを示しているのみで、定期的な練習環境として享受できる層が限られる  
→一定レベル以上に達した競技者に対する助成等は財源の確保次第で検討可能性あり
- ✓ 過去の類似実績がないため、各所への説明及び合意取得が必要な可能性あり

### 課題

- ✓ 中学生が満足に練習できるレベルの施設を、市内に設立する必要がある（民間ジムの誘致含む）

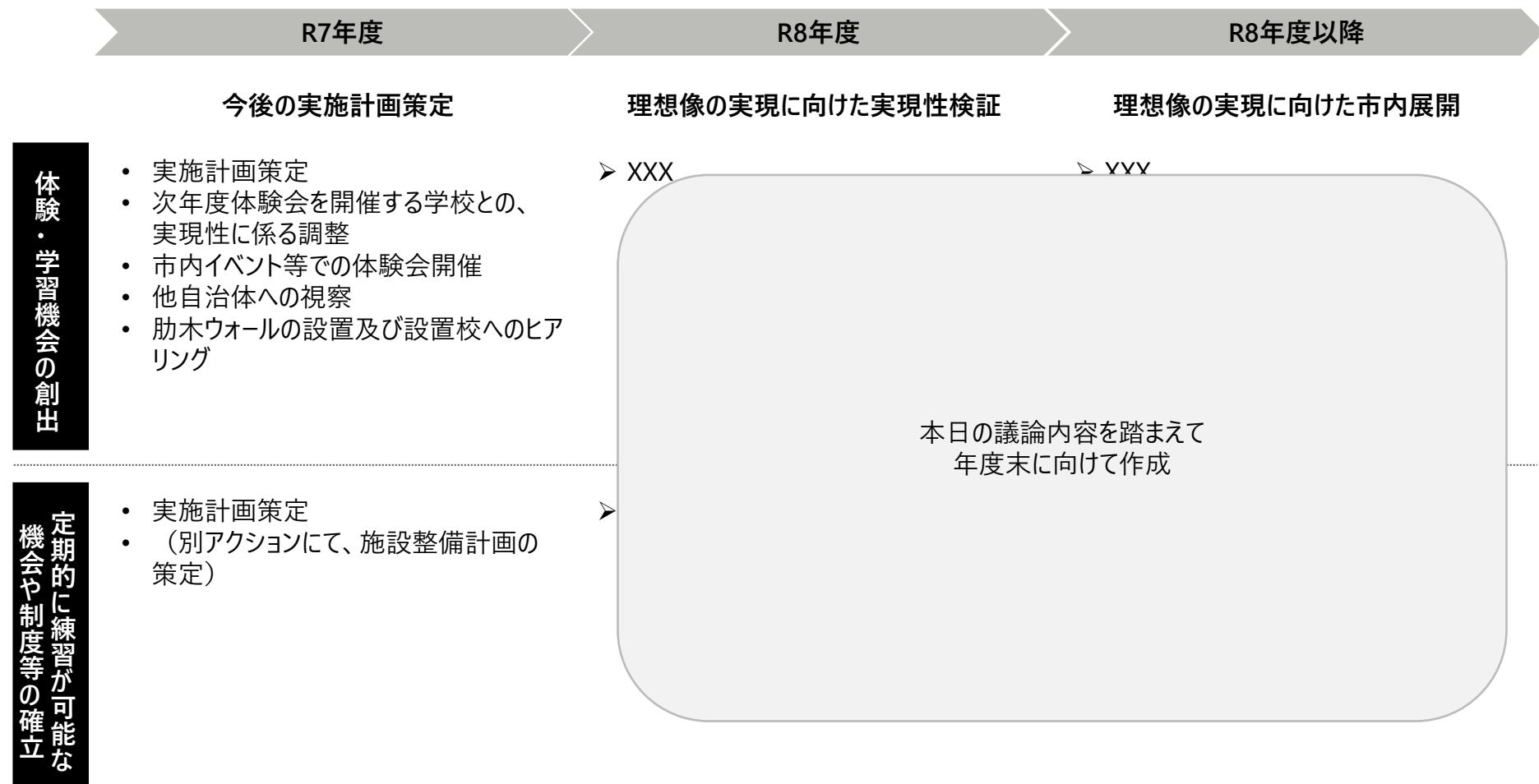
市内への中規模施設の整備（官民問わず）を目指しつつ  
市外クライミングジムが行うスクールの認定を目指す

XXX

## 中規模施設の機能要件

施設整備アクションにて整理予定  
(収支シミュレーションも含め)

## 今後の進め方



定期的に練習が可能な  
機会や制度等の確立

体験・学習機会の創出